
妖怪談義

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖怪談義

【Nコード】

N2024J

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

公園で子供が遊んでいると、何やら怪しい男が近寄っていった。どうやら男は、子供の遊び方が気に食わなかったらしく。

雨が上がった、昼下がり。

公園の中で、二人の子供が遊んでいた。

「俺、傘の化け物ー！」

「じゃー、僕は一反木綿いったんもめん」

「先手必勝、食らえ、傘ビiiiiいム！ズビビビビ」

「ぐわー、やられたー。と、見せ掛けて、それは僕の残像だ！」

「なんだと！」

「一反木綿は幽霊だから全ての攻撃が躲せるのだ」

「は？ それは汚いって。俺の傘ビームは、どんな敵にだって当たるっつーの」

「じゃあ、一反木綿は死んでー、次にその弟子の天狗が現れたー！」

「おおー、来たな、天狗！」

「そして天狗鼻ミサイルー！ ドガガガガガ」

「うお、つええええええええええ！ でも耐えた！」

「えー、傘は細いんだから、そんな強くないよー」

と、子供が遊んでる所に、大きな傘を持った男が近寄っていった。

「君達、ちょっといいかな」

「ん、何？」

「うん、まずね、傘の化け物っていうのは居ないよね。正しくは、傘化け、金おぼけ、もしくは唐傘小僧というじゃないかな。それと流石にビームは出さないと思うよ。天照大神や瑜伽大権現等の神書には目映い後光が画かれている事が多く、それも見方を変えれば光線になるから漫画的技法の元になったという人もいるけど、だからと言って科学技術の予言をしたという根拠はなく、むしろ一説には曼荼羅や真言の影響だと見る人もいるし」

「は？」

「ああ、それと、一反木綿は幽霊ではなく、付喪神の一種だと考えてる人もいるよ。また百鬼夜行に似た姿が同行しているから、魍魎の1つ判断する人もいるけど、断定は出来ないね。ただ、やはり一反木綿は水木しげる先生が作り上げた部分が多いだけに、何とも表現しにくいものになってしまったのさ。飛んでいるのかさえ、怪しいものだよ。それと天狗の鼻ミサイルは頂けないなあ。天狗の鼻は神様の印とも言われていてね」

「おっさん！」

子供が大声を上げたので、男は喋るのを止めた。

「な、何？」

「横からしゃしゃり出てきて、ウツサインだよ。何なんだ、お前は」

「いや、俺は間違いを正してあげようかと思ってさ。どうせ遊ぶなら、リアルっぽい方が楽しいだろ」

「……お前、大人の癖にバカだなー」

「バカ？」

「そんな夢がない事を言ってるから、お前はツマンネー大人になってんだよ。こっちは真剣に遊んでるんだから、邪魔するんじゃないよ」

「……あ、はい。すいません」

子供に言われた言葉がショックだったのか、男は項垂れたように公園を後にした。

傘を手に使っていた男がトボトボと歩いていると、背後から女性に声を掛けられた。

「よう、どうしたんだい？」

「雪女か」

「随分としょぼくれてるねえ」

「ああ、子供に夢がないと言われてしまっただけ」

「はははは。私達妖怪は存在が夢みたいなのに、子供から夢が無いと言われちゃ無様な話だねえ」

「俺も、そう思うよ。唐傘小僧として耳が痛いわ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2024j/>

妖怪談義

2010年10月17日04時40分発行